

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜城北高等学校

学校番号

8

I 自己評価

1 学校教育目標	確かな学力、豊かな人間性、健やかな心身を育み、一人一人の個性を伸ばし、社会の変化に柔軟に対応し、社会に貢献できる人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	・主体的に多様な人々と協働して学び、生きて働く知識・技能を身に付け、課題を発見し解決に取り組む生徒 ・心身の錬磨を図り、個性を尊重し、奉仕の精神を養い、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・社会の変化に柔軟に対応し、地域や社会の課題に取り組み、地域社会の発展に貢献できる生徒	・生徒一人一人がキャリアデザインを具体的に描き、自己実現が図れるよう、各学科の特色ある教育活動を推進し、専門性を深化させるとともに、キャリア教育を推進 ・「主体的・対話的で深い学び」を推進し、知識・技能を習得させ、他者と協働しながら課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む態度を育成 ・基本的な生活習慣の確立と自他の生命を尊重する態度を育て、生徒一人一人の個性を伸ばし、深い学びを実現するための社会に開かれた教育課程の編成と個に応じた指導の実施	・基本的な生活習慣が身に付いており、向学心を持ち、学校行事、生徒会活動、部活動などの活動に積極的に参加し、多様な人と協働して学ぶことができる生徒 ・進路実現に向かって継続的に努力し、多様な学びや資格・検定、コンクールに主体的に取り組み、自らの可能性を拓く意欲のある生徒 ・部活動でスポーツ活動または文化活動で優れた能力を有し、入学後も継続して活動する意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇生活デザイン科	
4 現状の分析	<p>○「コンクールや検定への積極的な取組」の項目では80.4%、「課題研究の内容は自分にとって有意義である」の項目では80.9%という肯定的な意見が得られた。</p> <p>○「ICTを活用した学習活動」の項目では、肯定的な意見が昨年度より増加し83.2%となり、改善が見られた。</p> <p>▲「わかる授業、工夫ある授業」の項目の肯定的な意見が79.3%と昨年と比較して7.1%減少した。</p> <p>▲「地域や外部との交流の機会が有効な体験となっている」の項目で、肯定的な意見が72.3%にとどまり、昨年度とほとんど変わらなかった。</p>	
5 学校の抱える課題	<p>◇生徒の基礎学力や理解力、学ぶ姿勢や意欲等に変化が見られ、生徒の実態に即した授業や取組が必要である。</p> <p>◇地域や外部との交流活動を実施しているが、生徒にとっての効果的な学習につながっていない、地域や中学校への情報発信力が弱い面がある。</p>	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に合わせた授業展開の工夫と指導力の向上。 ・外部との交流を通しての協働的な学習の実施と情報発信を行う。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 学習内容の理解や定着につながる授業改善を行う。	(1) 授業の自己評価、授業アンケート	
(2) 地元企業や他校種等の外部との交流活動および情報発信を積極的に実施する。	(2) 外部との交流活動の実施状況及び体験後の感想	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握、授業で取り扱う内容の見直し及び教材の工夫、ICT活用の充実、教員研修の実施 ・各種講習会、高大連携事業、特別支援学校との交流、岩野田保育園との交流、山県市の特産品を用いた商品開発と販売、アパレル企業の商品企画への参加などの外部との交流活動を実施 ・ファッションライブラリーや十六銀行岐阜駅前出張所での作品展示、校内外実施の外部向けイベント（ワークショップ、ファッションショー、カフェ等）の実施、お弁当レシピの配信等での学科やコースの情報発信 	①授業評価の結果、検定結果	A (B) C D
	②外部との交流活動の実績、生徒へのアンケート結果（感想を含む）	A (B) C D
	③情報発信の実績、アンケート結果	A (B) C D
12 成果	<p>○授業および教材研究を通して、工夫した教材やICT機器を活用の情報を交換し、分かりやすい授業につなげることができた。また、授業で使用できるコンテンツを増やし、共有することができた。</p> <p>○外部との交流活動をコロナ禍以前の状態に戻すことができた。新たな取組も含め実施することで、交流活動や情報発信の場を広げることができ、生徒の発展的・協働的な学習につなげることができた。</p>	
課題	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>	

<p>▲授業改善により学習内容の理解度の上昇にはつながったが、検定の合格状況等を見ると、知識や技術の「定着」につながっていない一面が見られる。学習内容の定着、さらには応用・発展させる力を付けさせることが必要である。</p> <p>▲外部との交流活動を単年度の実施ではなく、できる限り継続した取組にしていきたい。また、それらを実施するにあたり、そのための準備や練習のための授業時時間をどう確保していくかが課題である。</p>	
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の定着につなげるために、理論や思考を意識した授業の実施や反復学習を充実させる。 ・新規の交流活動については、次年度への発展的な活動を視野に入れて提案をするなど、交流先との協力体制をつくる。また、年間指導計画の見直し、交流活動の精選を行い、授業での位置づけを明確にして実施する。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業発表会では、総合学科・生活デザイン科の両学科それぞれの系列・コースの集大成が発表され、とても素晴らしかった。 ・社会に出てから即戦力となる生徒が育っていると感じた。
--